

市長定例記者会見 2010年10月26日

- ・ 日 時 平成22年10月26日（火）午前11時～
- ・ 場 所 本館3階第1会議室
- ・ 記者数 15人

議題 「平成22年度上半期松山市財政事情の公表」について

「平成22年度上半期松山市公営企業の業務状況の公表」について

「ことばのちから2010『だから、ことば』の募集結果」について

（市長）

平成22年度の上半期における本市の財政事情および公営企業の業務状況、また、平成21年度決算に係る財務書類、および健全化判断比率等の概要について説明させていただきます。

まず、平成22年度上半期 財政事情の公表についてですが、一般会計の財政状況は、昨年度の同時期と比べますと、歳入では約10億9千万円の減、歳出におきましても約36億8千万円の減となっております。これには、特殊要因がございまして、平成21年度には皆さんもご存じのとおり、定額給付金の支給がございました。そのことから、この財源としての繰越金や、給付に係る総務費の支出が大きく減少したことが要因となっております。今年はそれに代わる形で、子ども手当がありますけれども、定額給付金などの繰越金が約79億円減で、子ども手当の国庫支出金が約32億円増ですから、その分収入も減少しているということになります。歳出も定額給付金の場合約77億円で、子ども手当の場合、この段階では約11億円しか支出されていないため、その差額が減少という結果につながっています。ですから、これは特殊要因ということで現象を分析していただいたらと思います。また市債残高は、借り入れの抑制や積極的な繰り上げ償還を行ってまいりましたので、平成18年度決算以来、市債残高は減少傾向をずっと維持しておりまして、上半期時点における市債残高は、前年同期と比較いたしますと、臨時財政対策債、これは後年度、交付税で全額措置されるものですが、とりあえず借金をしておいてくれということで発行をするものでありますが、これを含めても減少となっているところでございます。

次に、平成22年度上半期松山市公営企業の業務状況のポイントについてですが、まず、水道事業会計につきましては、今年は比較的天候に恵まれましたので、安定給水を行うことができました。その結果、給水量は前年度に比べ1.9パーセント上昇、回復しまして、これに伴い水道料金収入も若干増加をいたしました。給水量が前年度に比べて増加傾向に転じ

たのは5年ぶりのことでありまして、一人1日平均給水量は、前年度より5リットル多い297リットルと大幅に回復基調を見せているところであります。また有収率は、94.0パーセントと若干低めの数値がこの段階で出ておりますけれども、年度を通して見れば、これは年度の特異要因がございますので、おおむね前年度並みの96パーセント程度になると予測しております。

次に、公共下水道事業会計につきましては、下水道使用料についてこちらもおおむね予定額を確保しているところであります。また平成21年10月に策定した公共下水道事業の経営健全化のためのガイドラインに沿った事業運営を行ってまいりました結果、経営を圧迫する要因として懸念しておりました企業債等の借入残高は、現在1,418億円で、対前年度上半期比較で3年連続減少しているところでございます。

次に、平成21年度の財務書類につきましては、補償金免除繰上償還の活用等により、資産に占める負債の割合が対前年度0.25ポイントの減少となっております。第3セクター等につきましては、連結後の貸借対照表をみますと、連結団体の規模は市全体の1パーセント程度でございますので、本市に与える影響は限定的なものとなっております。また、先の9月議会にて報告しました平成21年度の健全化判断比率等につきましては、実質公債費比率、将来負担比率ともに、市債の補償金免除繰上償還を行ったことなどにより、健全化法の基準を大きく下回っていることはもとより、昨年度よりさらに改善されているところであり、健全性は確保されている状況が続いていると考えております。

最後に、ことばのちから2010「だから、ことば」募集結果について説明させていただきます。「だから、ことば」大募集は、本市の持つ文学的土壌を背景に、新世紀を迎えるミレニアムイベントとして、2000年、平成12年に第1回の募集を実施したもので、ことばをテーマに全国に呼び掛け、地方から情報を発信するとともに、松山の文化的イメージアップを図ることを目的としております。前回の市長賞受賞作品「恋し、結婚し、母になったこの街で、おばあちゃんになりたい！」は、主婦の方が作られた作品で、この作品をコンセプトに、作家の新井満さんが作った楽曲「この街で」は、現在9組ものアーティストによってカバーされ、全国発売がなされているところであります。これは、1つの作品であることばが楽曲に変ぼうするという、まさに「ことばのちから」を実感する出来事だったと思いません。

さて前回の募集から10年の月日が流れました。「この街で」が生まれて5年の月日も流れました。そこで今年、2回目となる「だから、ことば」大募集を行いましたところ、全国はもとより世界数カ国から12,200点もの作品が寄せられました。前回は、12,001点でございましたので、前回以上の作品が寄せられたこととなります。「ことばを大切にする街」松山の全国的な文化発信につながったものと実感しております。なお、これからの審査につきましては、ことばのちから実行委員会の一次審査、その後、一般市民の皆さんによる市民審査、そして、新井満さんらによる最終審査を経て平成23年2月20日、日曜日に、

審査発表および表彰式を行いたいと考えております。私といたしましても、今回の募集から、どのようなことばが生まれてくるのか、今から楽しみにしているところであります。

詳細につきましては、担当の方から説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

(記者)

水の問題だが、一人当たりの給水量が、今年度は昨年度よりも増えている。これは、これまで進めてきた節水型のまちづくりの方向と逆行するような結果になるのではないか。

(市長)

決してそうではなくて、この給水量でも日本有数の節水都市の水準です。ただ、どうして増えたかといいますと、昨年は地下水の枯渇が早い段階から懸念されていまして、減圧給水の早期実施、それから非常に厳しい状況だということで、早期の節水協力の呼び掛けを全面的に展開していましたので、それと比較すると増えているようなレベルだと思っています。今年も4月から6月はかなり使用量が少なかったので、300リットルから305リットル、あるいはマックス310リットル程度までの話ではないだろうかと思込んでいます。そのレベルでも節水型都市としては、日本有数の数値だと思っています。ちなみに、私が就任した時は328リットルだったと思います。

(質問)

県知事選挙、市長選挙ともかなり前哨戦が激しくなっているが、先般、みんなの党の桜内さんの発言で若干気になるものがあった。帽子さんに推薦を出す時に圧力がかかったというような発言を、帽子さんの決起集会で公にされました。この件に関して自民党県連の内部から、中村市長の関与を指摘する声が上がっている。今回のこの発言について何か反論もしくはコメントはあるか。

(市長)

何もないです。何のことでしょうか。みんなの党は公の党ですから、私が圧力を掛けるような立場にはありません。

(質問)

帽子さんに推薦を出す前に、桜内さんに何か連絡し、フォローアップしたのではないか。

(市長)

私の推薦問題で、県知事選挙をよろしくと各党に投げ掛けました。

(記者)

このような発言が出てくるほど、今回の市長選挙はかなり混沌としているというか、かつ

てない激戦という認識がある。今回の桜内さんの発言について客観的に見て、市長はどう思うのか。

(市長)

選挙においては士気を鼓舞するために、それぞれが過剰な発言をすることはあり得ることですから、政治家の方々の発言をとやかく言っても仕方がないのではないかなと思います。

もう一つ言えば、先ほどかつてない激戦という話がありましたが、12年前の市長選挙の時は全政党と私との闘いでしたから、もっと激しかったです。その時は、毎日、圧力を掛けられていました。

(記者)

今回の市長選挙戦はまだ前哨戦だが、有権者の関心とか全体の盛り上がりは、どう感じているのか。

(市長)

分らないです。私は特に、最近、市外の活動も増えていきますので、かつてに比べると、松山市全体をつぶさに把握しているような状況ではないので、何とも言えません。選挙戦というのは常に候補者が一生懸命訴えて、選ぶのは市民の皆さんです。だから、そういう中で冷静に考えられた方がいいのではないかなと思います。

(記者)

市長選挙の投票率は、どう見ているのか。

(市長)

多くの方が立候補される予定ですので、呼び掛けも訴えも、その分、多くなります。当然のことながら、前回よりも高くなるのではないかなと思っています。私が出馬した12年前の市長選挙の時は、56パーセントくらいだったでしょうか。一生懸命頑張りましたが、その後は、残念ながら30パーセント程度で、今回は前回よりは高くなるのではないかなと思っています。

(記者)

松山維新の会が野志さんを応援していることで、近々、自民党松山支連が党紀委員会を開くようだが、自民党のそういう動きについて考えや意見はあるか。

(市長)

党の方のご判断なので、私のコメントは無いですけれども、大人の対応をされるのではないのでしょうか。

(記者)

除名とか離党勧告とかは、無いと信じているということか。

(市長)

それは分かりません。私は、その党所属ではありませんから。

(記者)

中村市長と野志さんの選挙応援とかに、知り合いの人が来る予定は具体的にあるのか。

(市長)

まだ詰めていないのですけれども、新聞で見ただけですが、大阪府知事が私の応援に行こうかなという発言をされていまして、連絡を取ってみようかなと思っています。

(記者)

電話するのか。

(市長)

はい。それから個人的なつながりで、何人かの国会議員から電話があり、時間が取れたら個人として応援に行くという連絡をもらっております。

(記者)

首長の方からの連絡はあるのか。

(市長)

あります。でも、そんなに受け入れられないです。

(記者)

名古屋市長の河村さんが来るという話を聞いたが。

(市長)

まだ、具体的に詰めていません。

(記者)

詰めていないが、応援に行きたいという連絡はあったのか。

(市長)

はい。首長の仲間です。

(記者)

愚陀佛庵の再建問題について、3カ所候補地が上がっている。知事になったらその立場でやると思うが、この問題について今の段階でどうか。

(市長)

最終的にはどれか一つに決まってしまうでしょうけれども、いろいろな意見が出てくる中で、最終的には審議会などで判断されていくのですが、どこに決まっても意見は3分の1ずつだとするならば、3分の1の方は賛成で、3分の2の方は反対になってしまうという宿命を負っています。皆さん、それぞれの場所に思い入れがありますので、再建場所を決定した理由について、明確にするというのが大切なのではないかと思います。

(記者)

市長が何らかの判断を下すとしたら、どういう基準があるのか。

(市長)

私は、そのような見識を持ち合わせてないので、いろいろな方々のご意見が出揃って、それを参考にしながらということになるかと思います。私が、この場所で再建するべきだという意見を持っているはずもないです。